課外活動に代わる協働学習事例 ~全国8分室合同 SDGsオンライン学習会~

公益財団法人こども教育支援財団 東京大志学園 横浜校 柳瀬 美咲

東京大志学園とは?

- 不登校児童生徒等の教育支援を行う機関。
- ▶ 全国13か所に教室開室。
- ▶ 集団授業・個別学習や各校オリジナル授業も。
- 保護者支援(講演会・親の会などを実施)



【例年の課外活動は・・・】

- ・各教室で課外活動実施(近隣の学習施設見学(水族館・記念館等)など)
- ・近くの教室同士での合同課外活動(スポーツ大会など)
- ・夏休みの親子宿泊体験教室(西日本・東日本に分かれて実施)

などを実施

2020年・・・コロナ禍 課外活動、宿泊行事など集団での協働学習の機会減少



オンラインで各都市8教室をつなぐ協働学習プロジェクト開催

児童生徒 個人の成長 教室集団 としての 成長 札幌・仙台・千葉・ さいたま・東京・ 横浜・静岡・名古屋

オンライン協働学習

ファシリテーター 公益財団法人こども教育支援財団 東京大志学園 横浜校主任



zoom

門川良平 氏 (株) すなばコーポレーション代表

Step 1

Step2-3

● SDGsボードゲーム「Get The Point」 「サスティナブル(持続可能)について学ぶ」

「サスティナブル活動」各地区調査

「オリジナルカード」作り

• 作成したサスティナブルカードを使い

• Get The Pointに再挑戦!







Get The Point とは?

- ▶すなばコーポレーション株式会社
 - ●子どもと大人のSDGs Get The Point

▶代表 門川 良平氏開発

▶子どもと大人のSDGs学習ゲーム

オンライン協働学習のねらい

Step 1

● SDGsボードゲームを通してSDGsや地球環境「持続可能 (サスティナブル)」の必要性について理解を深める

自律的な学習

生徒個人の成長

Step2-3

● 自分の通う教室の地域で行われている環境保全活動などの 取り組みに理解を深めオリジナルカードを作成。

> 仲間と共に考え 生まれる知恵

教室集団 としての 成長

Step 4

●他地区の児童生徒達が作成したオリジナルカードを使用し、 各地の「サスティナブル活動」を知りゲームに再挑戦。

SDGsボードゲーム初挑戦!「サスティナブル(持続可能)について学ぶ」

Step 1





最初のゲームは周りや残りの資材数等は考えず、自分が豊かになること(自分のポイントを稼ぐ) だけを考える。自分のことだけを考えては「未来の地球を守れない」という気持ちを強化。

Step2-3

- 「サスティナブル活動」各地区調査
- 「オリジナルカード」作り





各地区でのサスティナブル活動を調査し、一人一人オリジナルカードを作成。 ステップ4で各地区のものを共有できるようにする。 4葉市

シェアサイフル事業

カンリンなどのエネルギーをおさえた女 通手段の利用が広かった。



車を作る時、このカードを配石燃料
1枚の代わりに使うことができる。

かっまでう今から2周

く使える人数〉周につき人

環境にやさしい 最新自動車が関発された!!

Co2の排出か少ない 自動庫が開発された!! かんきかにせさいる!



血から、"植物"か"動物"か"木材"、 とれかしっをし枚回復させること かできる。







リサイクル可能なストローが開発された!

プラスチ、クストローを廃止し、紙ストローや食品系ストローに変化させくエコンになった。



Step 4

● 作成したサスティナブルカードを使った、 SDGsカードゲームに再挑戦!





各地区で作成したオリジナルカードを共有し再度ゲームに挑戦。 「未来の地球を守るために」を念頭にゲームに挑戦することで学びも深まる。 自分の作成したカードが使用されることで子ども達の満足感もUP。

実際の児童生徒の感想

- ・少しでも地球のためにできることがあったので、**自分にできることはやりたい**と思うよう<mark>になりました。</mark>
- ・グループの中で一番上だったので、周りに合わせたりするのが少し大変でした。でも、初対面の人とも喋れて、やりがいがあってよかったです。
- ・<u>チームで協力して</u>楽しかったです。より良い方向に考えながら意見を出し合い良かったです。
- ・オリジナルカードも個性的なものもあってイラストも上手いし、ゲームで知れてよかった。他の教室のオリジナルカードを知ることもできて良かったです。
- ・地球を守るためには**人任せではなく、自分たちで**守ろうと思った。
- ・課題にあがっているように1人1人が考え、<u>私利私欲のために貴重な資源を使うのではなく</u> 「何が代わりに使えるのか」「最後までものを使うこと」を考えていくべきだと思った。

振り返りと今後の展望

【よかった点】

- ・コロナ禍で課外活動が制約されている中でも他の教室と繋げて活動を行うことが出来た。
- ・調べ学習や個人での作業を通し、児童生徒個人の成長に繋がった。
- ・他教室の仲間や先生、外部講師と繋がることで活動が広がった。
- ・オンラインであっても他の教室の生徒の顔を見て話すことができた。

【改善点】

- ・対面で実施する場合と比べると、コミュニケーションが一方通行になることがある。
- ・対面で実施する時の方が、盛り上がるため双方向の授業を行うことが難しい。
- ・調べ学習やオリジナルカード作成は各校任せになることになるため、8教室を巻き込むことが 難しかった。どのように行うかは要検討。

【今後の展望】

- ・例年2月に合同スポーツ大会を実施。今回を踏まえオンラインでの実施を検討。
- ・東京大志学園として教室間をつないだオンライン授業をプログラム化。